

「ヒコーキと美術展」と秋水

石川 秀幸

佐久間さん・平田さん肝入りの展示を、横須賀美術館へ令和3年3月11日見に行く。それは敗戦の年の4月ころの思い出がはっきりとの残っていたからだ。学徒勤労動員で海軍航空技術廠で旋盤を廻し、鉄製品を加工していた。指導員からこれは「秋水」の部品だ、誤差は1000分の3ミリと言われ、マイクロメーターと共に渡された。出来上がった製品が熱い時、計ったら合格だったが、冷えると寸法が少し足りない「オシャカ」。ドデカイ雷が落ちた。当然のこと平謝りをした。温度まで気が付きませんでしたと。しかし、1月に初めて旋盤を教わった未熟な生徒には荷が重も過ぎます、と苦しまぎれの哀願が認められた。以後は簡単な製品を制作することになった。その「秋水」とは本土空襲するB29爆撃機を撃墜するため、急上昇が出来る小型戦闘機と知っていた。

その年の敗戦後の秋、横須賀中学3年の教室で、友人が黄色の「秋水」が追浜の飛行場から飛んだのを7月に見た、どうやら着陸に失敗したようだという。その7月は私たち3年4組は北鎌倉の山へ旋盤を疎開作業中で「秋水」を見られる条件ではなかった。

佐久間さんは平成になって横須賀サポートセンターで「秋水展」を複数回開いておられる。

今回は「秋水動画チャンネル」で、黄色い戦闘機が勇ましく飛ぶ。また、海軍航空技術廠の地図が展示してある。出入りした鉦切（なたぎり）門から貝山緑地・風洞実験棟・私たちが旋盤を廻した第3工作ビル・その西側に海軍航空技術本廠ビルがある。解説があり、敗戦後ソニーの社長となられた盛田昭夫氏がこの廠舎ビルに勤めていたと書いてある。遠い昔の若かった頃をを甦らせながら、「秋水」の噴射装置の部品など、展示品を感心して眺める。

世界と日本の航空機の歴史を写真を加え展示してある。理解は出来るが記憶はおぼつかない。卒寿の身だ、ここに来ただけで有難いことと思う。

大戦中の爆撃機や戦闘機を多数の画家たちが、個性豊かな絵画が数多展示されている。「ヒコーキ」だけの戦争絵画は珍しい。

この日すっかりした冬晴れ、浦賀水道を行き交う船が綺麗に見える。対岸の君津の製鉄所の白い煙突から白い煙も見える。更に南にはは白衣の東京湾観音が、山上にお立ちになっていた。

(検索＝F3IT基礎3章)